

# 四月例会 御案内

〔平成三十一年・通算第六九五回〕

## 公益財団法人 協和協会

### ○ 御案内

四月十七日(水)十一時半入館可、正午～午後二時半 参議院議員会館地下一階B101会議室  
講題 韓国、北朝鮮どうなる? 混迷する東アジア情勢!  
講師 重村智計先生(朝鮮半島問題研究の専門家、早稲田大学名誉教授、現・東京通信大学教授)  
◎ ハノイにおける米朝会談は世間の予想に反して不成功となり、帰国した金正恩はその後、核開発再開とミサイル誇示をチラつかせています。また、韓国は戦時中の徴用工に対する賠償を日本企業に執行する反日政策を強行しつつあります。そして、中国は戦時中の徴用工に対する賠償を日本に、前掲のような問題を中心に、御講話御解説をいただくことにしました。重要課題、奮っての御参加お待ち申し上げます。(清原記)

□ 当日会費(昼食付き) 会員は三千円、非会員五千円。

公益財団法人 協和協会 <http://www.kyowakyoikai.or.jp>

四月十七日(水)の月例会に

出席 欠席 (いずれかに○印を) 電話 03-3581-1192  
FAX 03-3507-8587

御芳名

貴方様の FAX  
メール

当日連絡先 080-8836-6203 重田

080-9292-2620 高津

(メール不可・通話のみ)

四月十五日(月)までに欠の御連絡賜りたく。

### ○ 御報告

日本のバブル期のように、急速に経済発展した習近平の中国は、その資金にまかせ、アメリカに対抗して、地球支配へ挑戦している観があり、それを認識したトランプ大統領は、中国への関税を高くし、アメリカの知的所有権を侵害しているとして、中国の国策企業「ファーウェイ」の副社長の逮捕を進めており、対する中国も関税を高めるなど、米中の貿易戦争が激化しています。そこで、三月二十八日(木)の月例会は、「軍事的視点で読み解く米中経済戦争」と題して、防衛大卒・陸上自衛隊西部方面総監部幕僚長・陸将を勤めさらにハーバート大学アジアセンターで戦略研究もされた福山隆先生に御講話をいただきました。

御講話の要旨を挙げますと、この協会が言われるように、米中の勢力争いは地球を二分する様相を呈している。戦前の昭和十五年、当時、石原莞爾という將軍がいて、将来、日本と米国は、地球上の支配を争う「世界最終戦争」を起こす。その時の戦争は、線と線(部隊衝突)から、面と面(大軍の衝突)、立体と立体(航空戦、ミサイル、核攻撃)と進化して、最後は四次元の戦い(電波などによるサイバー戦争)になる、と予言した。それを日本に代わり、中国が躍り出ていると言えらる。軍部きっての戦略家・石原莞爾も東条英機と衝突し、陸軍中將で退役している。そうした次元の戦争は兵器によるばかりでなく、貿易戦争、経済戦争を含む国家総力戦である。また戦争を起こすのはマキャベリスト(権謀術数)の指導者であり、トランプも習近平もそうだ。さらに、戦略家マハンの「海洋を制するものは世界を制す」の言葉、地勢学の開祖マッキンダーの「大陸を制するものは世界を制す」の言葉を、米中にはいまその鬨ぎ合いだとし、続いて、ハーバートなどで学んだアメリカの戦略論の一端をいらいと説明され、大層勉強になった。日本では、第九条で戦争放棄したからと、戦略論・戦術論の研究をすると学会から猛攻撃を受け出来ないが、この日本の姿勢は国を滅ぼすことになる、と暗澹たる思いに陥った。(清原記)

### ▽ 当「公益財団法人 協和協会」とは

昭和四十九年、岸信介元総理によって創立された財団。活動趣旨は、「政党・派閥・利害・打算の次元を超えて、真に国家的課題を研究調査し、特に重要課題は、政府宛要請書を作って、時の政府へ提出する」ことにある。昭和五十四年から本格活動に入り、月例講話会のほかに、八つの部会と、五、六の委員会があり、これまでに百三十七本の要請書を時の政府に提出している。第二代会長は福田越夫元総理、第三代会長は櫻内義雄元衆議院議長、第四代会長は塩川正十郎元財務大臣、第五代会長代行として、江口一雄元衆議院議員、現在、第六代は代表理事兼会長代行として、岸信夫衆議院議員・安全保障委員長、元外務副大臣が就任している。

▽ 事務局電話(03) 3581-1192 代表理事兼専務理事・清原淳平、総務 重田、高津